



西本 章
市民連合
(70分)

本市の児童虐待への対応は

問 市として児童虐待の現状をどう捉え、どのような対応をしているか。

答 児童相談所における相談、通告件数の増加については、児童虐待そのものが増えたことに加え児童虐待に対する意識の高まりによるものと捉えている。

児童虐待が起きる背景としては子育て家庭の孤立化や経済的困窮など、さまざまな要因がある。

市では、虐待の相談、通告を受けた場合、早急に子どもの安否確認を行い、状況に応じて東部子ども家庭センターと連携を図るなかで、被害児童の早期保護に努めている。



※オレンジリボン



大塚 忠司
新政クラブ
(60分)

福山駅北口広場の整備を

問 福山駅北側は福山城、美術館など文化施設が集積し、現在は外国人観光客誘致の取り組みも始まり、一層の環境整備が必要である。特に福山駅北口広場周辺は、朝夕のピーク時に送迎車等の交通で、雑然とした状況にある。

観光客の誘致を進める上で、にぎわいの創出や見せる景観も考慮し、広場全体の見直しをしようか。

答 福山城築城400年に向けた取り組みや、福山駅前の再生に取り組む中で、北口広場から福山城に至るエリアが歴史と文化の薫る本市のもう一つの「顔」となるよう、事業効果や優先順位をしっかり検証しながら、福山駅前との一体性も考慮しつつ、検討する。



八杉 光乗
新政クラブ
(40分)

通学路における交通安全対策は

問 ①通学路交通安全プログラムが策定されて2年が経過したが、成果と課題は。

②対策内容の改善、充実には、危険箇所事情に精通した幅広い方々の意見が必要では。

答 ①それぞれの危険箇所の状況に応じて、関係機関、団体、地

域が協力して取り組みを進めることで実施率は74%を超え、短期間に幅広く多様な改善が図られた。課題としては、水路の蓋掛や柵の設置等を行うことが地域住民の利便性の妨げとなる場合や、道路

拡幅に必要な土地が確保できないなど対応が困難となる場合がある。

②合同点検は、学区自治会連合会等と連携し実施しているが、危険箇所によっては、その地域の事情に精通した住民の方の協力をお願いするなど、地域の皆さまと幅広い連携を図っていく。



岡崎 正淳
無所属
(30分)

支所機能の在り方は

問 市長選挙では支所の機能や権限も争点となった。これまで地域内分権の議論や施設整備を進めてきたが、支所の役割や機能の在り方に関する考えは。

答 これまで市民に身近な業務は支所で行い、本庁に集約することで効率化が図れる業務は本庁集

約し体制整備を行ってきた。

平成20年度から拠点支所を整備し、支所長に地域施策の企画立案や協働のまちづくりの総合調整機能などの権限移譲、地域振興課に生涯学習部門を統合し、まちづくりと人づくりを一体的に行っている。

今後は、拠点支所以外の支所を含め、各支所が核となり地域住民や団体のニーズ把握と活動支援を行い、協働のまちづくりのさらなる発展に取り組む。

※オレンジリボン：「子ども虐待のない社会の実現」をめざすオレンジリボン運動のシンボルマーク。オレンジ色は、子どもたちの明るい未来を表している。

※拠点支所：地域内分権、協働のまちづくりおよび総合的な行政サービスの推進のため、保健福祉や建設産業等の部門を有し、支所判断による地域特性を生かした行政運営を行うことができる支所（松永、北部、東部および神辺の4支所）。